

# 日本ヴィクトリア朝文化研究学会 第 24 回 全国大会プログラム

日 時： 2024 年 11 月 23 日（土） 10:00～20:00  
場 所： 上智大学 四谷キャンパス 6 号館  
（対面形式のみの開催となります）

★受付 9 時 30 分より

★研究発表（10:00～11:35）

	第一室（6 号館 405 号室）	第二室（6 号館 406 号室）
10:00 ～ 10:45	<p style="text-align: center;">司会：日本女子大学名誉教授 川端康雄</p> <p>1. ジョン・ラスキンの想像力—宇宙への 眼差し 神戸女学院大学（院）津村 真衣</p>	<p style="text-align: center;">司会：駒澤大学 川崎明子</p> <p>1. ヴィクトリア朝小説における「障害」の 受容と「男らしさ」の表象—Dinah Craik の <i>A Noble Life</i> を中心に 早稲田大学（院） 星 志乃</p>
10:50 ～ 11:35	<p>2. ヴィクトリア朝絵画とペイターの ギリシア観 盛岡大学 若名 咲香</p>	<p style="text-align: center;">司会：名古屋外国語大学 甲斐清高</p> <p>2. 大正期ディケンズ翻訳におけるユーモアの 考察 香川大学 杉田 貴瑞</p>

★ラウンドテーブル（13:00～15:00） 6 号館 405 号室

表象される／されないヴィクトリア朝：ポップカルチャーとアダプテーション

司会：中央大学 宮丸 裕二  
提題者：同志社大学 諏訪 暁  
明治大学（非） 熊谷 めぐみ

★特別講演（15:15～16:30） 6 号館 405 号室

司会：西南学院大学 金子 幸男

中期ヴィクトリア朝小説を縦に読む—ハイド・パークを中心に

上智大学 永富 友海

★会長就任特別講演（16:40～17:10） 6 号館 405 号室

ヴィクトリア時代の古典学概況

司会：甲南大学名誉教授 中島 俊郎

上智大学名誉教授 舟川 一彦

★総会（17:10～17:30）

司会：慶應義塾大学 石川 大智

★懇親会（18:00～20:00）

会場：13 号館 3 階 304 会議室

### (第一室)

#### 1. ジョン・ラスキンの想像力—宇宙への眼差し

神戸女学院大学(院) 津村 真衣

近年、惑星としての地球に目を向けた、新たなエコロジカルな視点から文学が読み直されている。この流れと並行して、2010年代からジョン・ラスキン(1819-1900)のエコロジストとしての側面にもより光が当てられるようになったが、取り上げられる作品の多くは『十九世紀の嵐雲』(1884)であった。それゆえ考察される想像力も空を対象とした仰瞰的視点に留まりがちで、より広範囲へと向けられる縦横無尽なラスキンの想像力への言及や考察は乏しい。本発表では、ラスキンの科学への評価や反応にも触れながら、ダビデと近代人の宇宙への眼差しを取り上げた『フォルス・クラヴィゲラ』の一手紙「星の法則」を考察対象の中心に据えて、彼の地球、そして宇宙へのエコロジカルな想像力を読み解く。『大気の女王』(1869)を皮切りに環境問題に関する執筆もより活発になっていたラスキンが書いたこの手紙には、無意識的にだろうか、彼のエコロジカルな感覚が浸透している。21世紀の今、従来は環境文学の対象とはならなかったラスキンの小品を取り上げ、読み直すことの意義を提示するとともに、彼の想像力についての理解を深めることを目的とする。

#### 2. ヴィクトリア朝絵画とペイターのギリシア観

盛岡大学 若名 咲香

19世紀後半、W. ペイターによって、暗く憂愁で原始的・狂気的な古代ギリシアの姿が論じられた。従来の研究でも指摘されているように、この古代ギリシア観は、理性的で明るいヘレニズムとは異なる、当時としては斬新な考え方であった。ただし、ペイターの古代ギリシア観が同時代文化にどのような波紋を広げたかという問題には、考察の余地が残されている。19世紀後半のイギリス絵画では、ペイターが『ギリシア研究』で言及した暗く狂気的な古代ギリシアを体現する諸存在(ディオニュソスとその信徒バッカンテ、デメテルとペルセポネなど)の主題を描いた作例が多数あるものの、それらの絵画におけるペイターからの影響がどのようなものであったのか、十分に論じられてはいない。本発表では、E. レイトンやJ.W. ウォーターハウスなどの絵画を取り上げ、ペイターの古代ギリシア観と同時代絵画の関連性の様相を明らかにしたい。

### (第二室)

#### 1. ヴィクトリア朝小説における「障害」の受容と「男らしさ」の表象—Dinah Craik の *A Noble Life* を中心に

早稲田大学(院) 星 志乃

ヴィクトリア朝小説において、身体障害のある男性登場人物は当時のジェンダー規範から逸脱した人物として描かれ、共同体の周縁に位置付けられる傾向にある(「障害」の表記については、「障害を生み出しているのは社会である」とする障害学の社会モデルの考えに基づき、「障害」の表記を採用する)。障害が継続的な関心事であった当時の人気作家の一人 Dinah Craik (1826-87) の作品は、20世紀末以降、障害学の台頭によって文学研究からも注目を集めてきている。彼女の小説 *A Noble Life* (1866) は身体障害のある男性貴族を主人公としており、地域の中心・尊敬の対象である伯爵の表象からは公的領域での障害の受容や克服が見受けられる。本発表では、公的領域における伯爵の表象の検証によって障害のステイグマ化の克服を明らかにし、私的領域における伯爵の表象の考察により、理想的な「男らしさ」の実現とその限界を指摘する。

#### 2. 大正期ディケンズ翻訳におけるユーモアの考察

香川大学 杉田 貴瑞

本発表は、チャールズ・ディケンズの『ピックウィック・クラブ』(1836-37)の翻訳作品である『ピックウィック倶楽部』(1913)におけるユーモア翻訳について論じる。『ピックウィック倶楽部』の訳者は、佐々木邦という大正から昭和にかけてのユーモア文学作家であり、彼は『トム・ソーヤーの冒険』(1876)の翻訳も行っている。『ピックウィック倶楽部』は全訳ではなく抄訳となっており、ピックウィック・バーデル裁判の後ピックウィック氏がフリート監獄に投獄されて以降の話はほぼ割愛されている。当時の翻訳において抄訳は一般的だが、ユーモア作家である佐々木が、原作では人気のサム・ウェラーの登場場面を多く削除する選択をしたことになる。そのため、翻訳と原作のテキストの差異を分析することによって、ディケンズのユーモアの受容について考察する。さらに、この翻訳から逆照射してディケンズの文体におけるユーモアの特異性を探る。

## 【ラウンドテーブル】

### 表象される／されないヴィクトリア朝：ポップカルチャーとアダプテーション

現代において、ヴィクトリア朝の文化や人物は小説、映画、マンガ、ゲームなどさまざまな媒体で取り扱われ、この現象はイギリスだけでなく日本でも多く見られる。なぜポップカルチャーではヴィクトリア朝がこれほどまでに多く題材として取り上げられるのだろうか？どのような事象や人物がより多く表象されている、またはされていないのか？現代におけるヴィクトリア朝の表象とその特徴・問題点について、オーディエンスと一緒に考える機会としたい。

#### 報告1) シャーロック・ホームズを中心とした19世紀ヒーロー像の再定義

同志社大学 諏訪 暁

イギリスを中心に社会的・学術的関心が高まっている「ネオ・ヴィクトリアニズム(neo-Victorianism)」は、ヴィクトリア朝時代のイギリスを舞台とする、またはその影響を強く反映した小説、映画、ドラマ、漫画、ファッションなど、多岐にわたる分野における文化現象を指す用語である。ネオ・ヴィクトリアニズムでは、19世紀半ばのイギリスの社会規範や文化が単にノスタルジックに美化されるのではなく、批評的・俯瞰的な視点から描かれることが特徴である。また、この現象は、ヴィクトリア朝に対する知識や理解を批判的に再評価する手段として機能していると考えられる。本発表では、ネオ・ヴィクトリアニズムについて論じる際に多く取り上げられるシャーロック・ホームズの翻案作品を中心に、19世紀イギリスのヒーロー像が現代においてどのように再定義・再解釈されているのかについて考察する。

#### 報告2) 表象されないディケンズ

明治大学(非) 熊谷 めぐみ

近年、日本のサブカルチャーにおいて文学作品のキャラクターや作家を表象する作品が増えている。その対象は国内に限定されず、英米を中心とした外国語の文学作品や作家も扱われることが多い。また、ヴィクトリア朝やヴィクトリア朝風の舞台設定も引き続き人気を博している。その結果、シャーロック・ホームズ、その作者の Conan・ドイルを筆頭に、多くのヴィクトリア朝の文学作品や作家たちが、日本の漫画やゲームなどで表象され、直接原作や作家を知らない層にまでその存在が知られるようになっている。

一方、ヴィクトリア朝文学の重要な人物でありながら日本のサブカルチャーでほとんど取り上げられない作家が存在する。チャールズ・ディケンズである。欧米のサブカルチャー作品においては、ディケンズやそのキャラクターはヴィクトリア朝の象徴的な存在として、ドイルやホームズのように登場することが珍しくはない。それでは、なぜ日本のサブカルチャーではディケンズや彼のキャラクターたちは表象されないのだろうか。本ラウンドテーブルでは、少しばかりの希望を感じる作品も紹介しながら、その現状と理由を読み解いていきたい。

## 【特別講演】

司会：西南学院大学 金子 幸男

### 中期ヴィクトリア朝小説を縦に読むーハイド・パークを中心に

上智大学 永富 友海

1860年代に爆発的人気を誇った<センセーション・ノヴェル>という大衆小説群が批評の俎上に上り始めた40数年前、その格上げに一役買ったのは「転覆的(subversive)」という評言であった。犯罪や不道德な要素(殺人、放火、恐喝、監禁、文書偽造、不義密通、私生児、売春等々)をふんだんに盛り込み、ヴィクトリア朝の伝統的なリアリズム小説の主軸を成す結婚と相続のプロットを換骨奪胎する、これがこの際物ジャンルの特性である。その結果明るみに出た両者の近似性——正典作品の多くが上述の要素を分かち持つ——については、しかしながらトロロープがすでに指摘済みである——「優れた文学作品はリアリズムとセンセーショナルの両方を兼ね備えている。」そこで正典／非正典のイデオロギー考察の別の切り口として今回着目したいのが、同じく1860年代に当時のメディアを騒がせた社会現象、すなわちハイド・パークにお目見えした“pretty horsebreakers”と呼ばれる高級娼婦の存在である。



ロンドンの社交シーズンを中心に、上流社会限定の社交場であったハイド・パークのロンドン・ロウ(乗馬道)は、ヴィクトリア朝に至って、ジェンダーの垣根を超え、貴族以外の成り上がり階級も加わり、華やかな出で立ちの男女が乗る馬と馬車でごった返す流行の名所と化す。その立役者となった高級娼婦のひとは、ヴィクトリア女王の目と鼻の先で、騎乗の「女王」として君臨し、満都の話題をさらう。問題はメディアを喜ばせたこの転覆的現象に対する小説家たちの反応である。この現象を避けたディケンズ、ロンドン・ロウの常連となるトロロープから、センセーション・ノヴェル、さらにはボヘミアン・ノヴェルといった大衆小説群へと読みつなぐことで、文学史の余白を読み解いてみたい。

## 【会長就任特別講演】

司会：甲南大学名誉教授 中島俊郎

## ヴィクトリア時代の古典学概況

上智大学名誉教授 舟川一彦

会長就任の挨拶を兼ねて、研究生の中で私が長らく興味を持ってきたヴィクトリア時代の古典学の展開とそのイギリス的な特徴について短い話をさせていただきます。

\*\*\*\*\*

### 懇親会(18:00 ~ 20:00)

会場:13号館3階304会議室

\*主会場から懇親会場の13号館に移動する際には、いったん正門から土手沿いのソフィア通りに出て、13号館の外玄関からお入りください。

会費:5,000円(学生は2,000円)を予定

申し込み方法:以下のURLから11月7日(木)までに参加登録してください。

<https://forms.gle/7zUqq59vbaNy8GPj7>

問い合わせ先:町本亮大(上智大学) machimoto@sophia.ac.jp

### 会場へのアクセス

JR中央線、東京メトロ丸ノ内線・南北線/四ツ谷駅 麴町口・赤坂口から徒歩3分。

東京メトロ有楽町線麴町駅2番出口から徒歩8分。

四ツ谷駅からおいでの方は北門から、麴町駅からおいでの方は東門からお入り下さい。

詳細は以下の情報をご覧ください。

#### ★上智大学四谷キャンパスへの交通アクセス

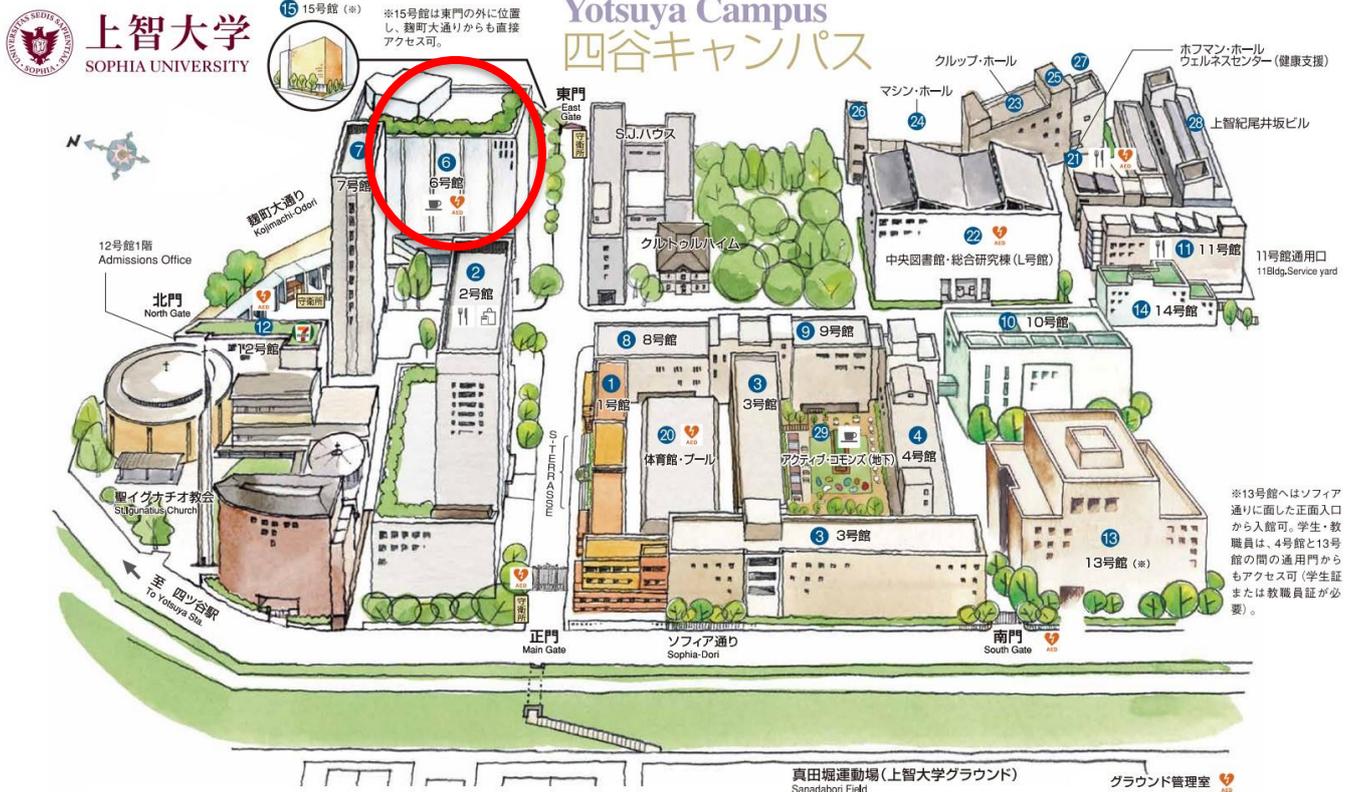
<https://www.sophia.ac.jp/assets/uploads/2022/11/itd24t00000036xq.pdf>

#### ★上智大学キャンパスアクセシビリティマップ(麴町駅、四ツ谷駅との位置関係がわかりやすいです)

<https://www.sophia.ac.jp/assets/uploads/2024/01/bb9b99299f733b9ce93b45b53ce03328.pdf>

## 四谷キャンパスマップ

赤丸で示している6号館が主会場です。



### 会場案内

- \* 12号館地下でセブンイレブンが営業しているほか、大学周辺でも多数のコンビニ、飲食店がご利用いただけます。
- \* 教室での飲食は可能です。
- \* 研究発表終了後、6号館406号室を控室としてご使用いただけます。

11月24日(日) エクスカーション 集合時間 11:00 場所: JR 東京駅丸の内北口ドーム内  
東京ステーションギャラリー 展覧会鑑賞

「テレンス・コンラン モダン・ブリテンをデザインする」

[https://www.ejrcf.or.jp/gallery/pdf/202410\\_conran.pdf](https://www.ejrcf.or.jp/gallery/pdf/202410_conran.pdf)

団体割引があるわけではないので、ただ単に有志で集まってわいわい観に行こうじゃないかという企画です。参加をご希望の方は10月30日(水)までに、担当(松本) [matsuko@rs.tus.ac.jp](mailto:matsuko@rs.tus.ac.jp) までメールでお知らせください。

日本ヴィクトリア朝文化研究学会  
(The Victorian Studies Society of Japan)

事務局: 〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1

慶應義塾大学理工学部外国語・総合教育教室(英語)

石川大智研究室内

TEL: 045-566-1133

E-mail: [victorianstudiesjp@gmail.com](mailto:victorianstudiesjp@gmail.com)

学会 URL: <http://www.vssj.jp/>